

カガヤキ

No.52(2021.2.1 刊行)、広報委員会編集

県立図書館発行

禁複写転載©広報委員会

特別企画 ボランティア特性分析

県立図書館普及課

石井敬之

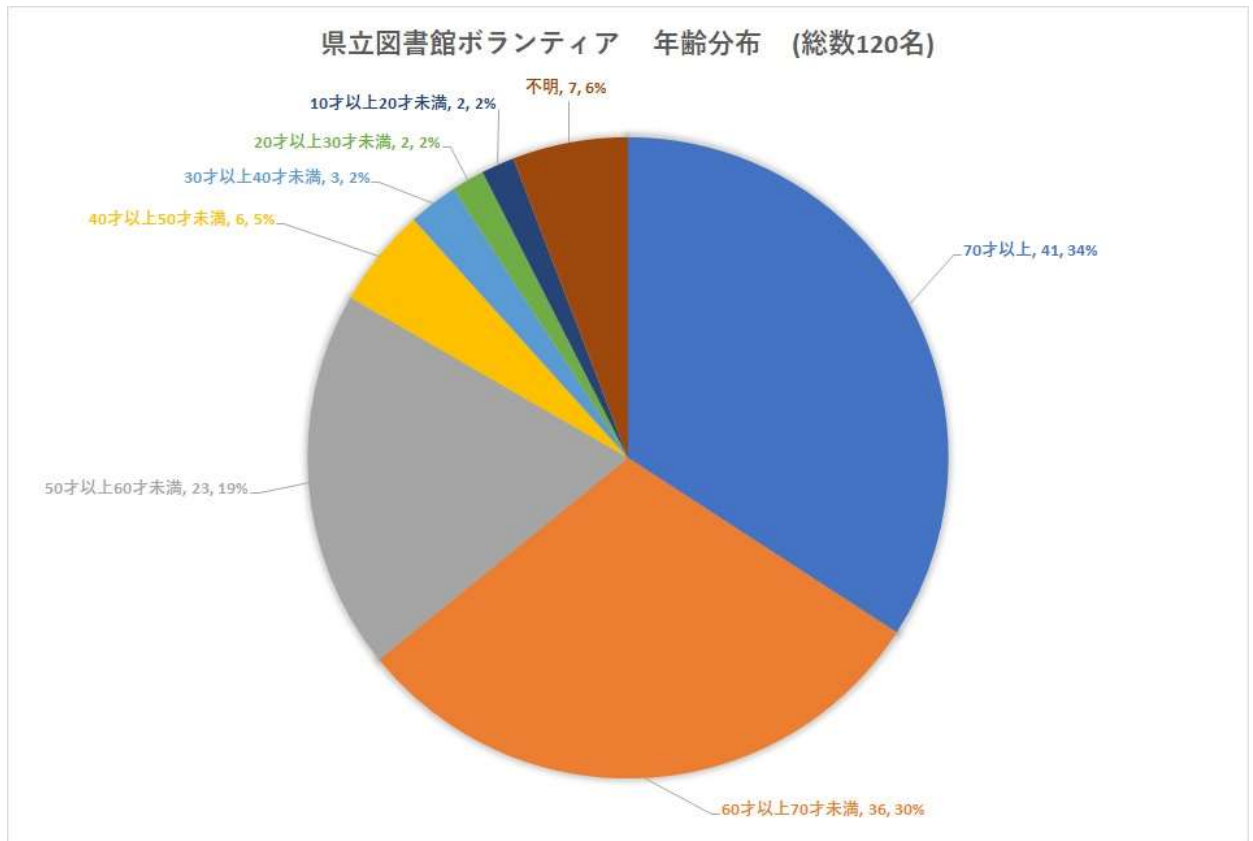
広報グループは県立図書館ボランティアの特性分析を実施してきた。これまでの調査検討結果については「通信紙 No.48」にまとめておいた。調査項目によっては、広報グループ単独で実施可能なものもあれば、個人情報にかかわる項目については、県立図書館ボランティア事務局の協力を得なければ、できないこともある。特筆すべきことは、現在の人数が、過去最多時の三分の一であり、減少傾向にあること、児童グループの人数が、約半数を占めていることである。そのため、広報グループは、児童グループの現場調査(通信紙 No.47)を実施したことがある。

ボランティア登録者数

対面朗読ボランティア	12名
児童サービスボランティア	52名
図書修理ボランティア	7名
録音図書製作ボランティア	17名
三の丸書庫ボランティア	9名
広報ボランティア	1名
郷土資料ボランティア	10名
資料配架ボランティア	19名
外国語図書ボランティア	4名
視聴覚資料ボランティア	※0名

※新設のため在籍なし。

延べ登録者数 120人(※重複を除く) 2020年4月21日現在。



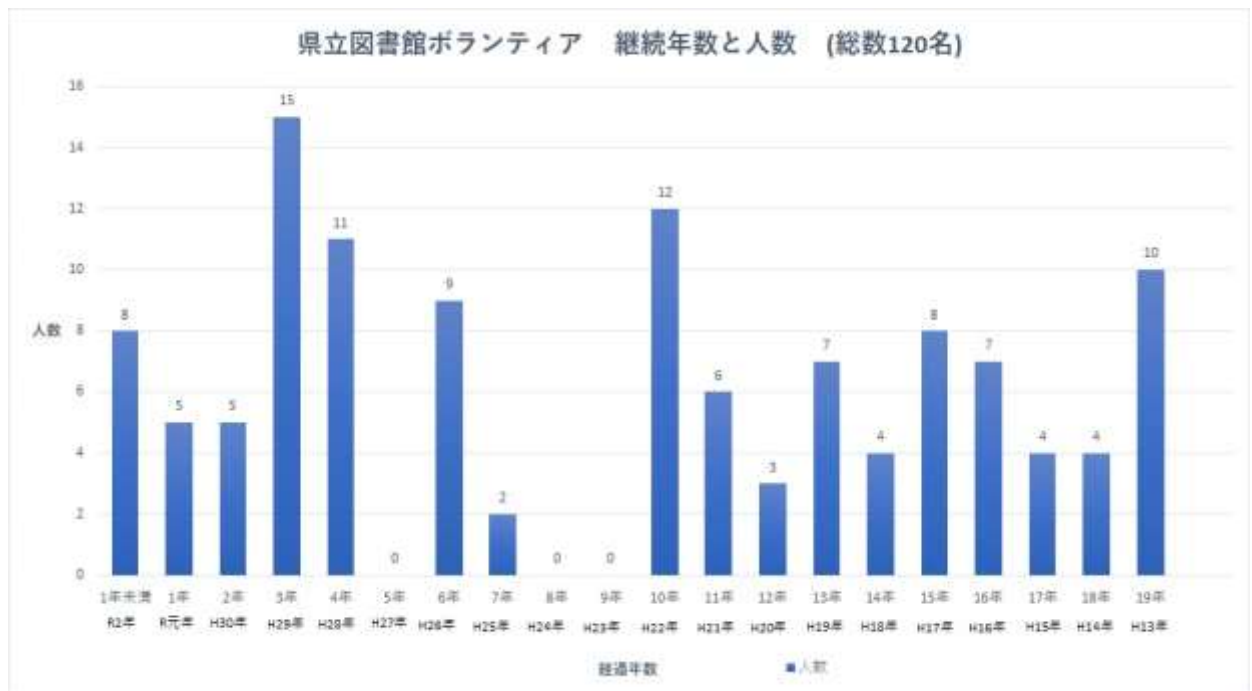
ボランティアの年齢構成の特徴は、高齢化社会を反映しており、高齢者と定義される60歳以上が77人(64%)、そのうち、70歳以上が41人(34%)も占めていることである(図では、年齢範囲の次に人数、その次の数字が%)。10-30歳が4人(4%)と少ない。

ボランティアの語源は、ラテン語の「ボラント」であり、それをする人を「ボラントス」と言う。

欧米のボランティアは、誰でも、空いている時間に、自由に参加しており、参加者の年齢構成は、各年代とも、極端な偏りが少なく、平均化している。県立図書館ボランティアもそのような方向を目指したい。

ボランティアには、有料参加と無料参加があり、無料参加をボランティアと言うのではなく、ボランティアの本来の意味は、「自主的に参加する」ことである。

曹洞宗修行僧(雲水)の立場(桜井、63歳で出家して74歳で剃髪)で言えば、ボランティアとは、誰しも、意識していなくても、結果的には、仏教学における「布施」(六波羅蜜のひとつであり、「財施」「法施」「無畏施」からなる)のような位置づけになっている。「布施」は、他人のためにすることではなく、自身の徳を積むための自主的で自然な行為である。仏教学で言えば、人間として最高の位置であり、菩薩に限りなく近づくための自然な行為である。



ボランティアの継続年数の特徴は、大きく分けて、数年以内と十数年前後となり、平均的には、約10年となる。統計データから、県立図書館ボランティアは、継続的に、熱心に、精進していることが読み取れる。大変、良い傾向である。

編集後記

いかなる組織にも、特別な資料を除き、法的保存期間があり、3年と定められており、貴重な情報が記載されている資料が、廃棄されています。

県立図書館ボランティア事務局は、応募者からの申込用紙やボランティア室に置かれている「作業日チェック簿」の記載内容を分析し、ボランティアにかかわる基本的な特性分析を実施しているものの、すべての情報が、継続的に、ボランティア側に、有効

に活かされているわけではありません。

広報グループは、県立図書館ボランティアの詳細特性を社会科学の研究手法に基づき、調査分析しています。しかし、広報グループには、権限内での独自視点での調査は可能であっても、申込用紙に記載されている個人情報を知りえる立場にも、権限もないため、必要な情報については、調査と利用の目的を伝え、事務局判断により、個人情報が直接表現されないような注意深い処理後、提供されることがあります。

今回の特集では、2020年4月21日現在のボランティアの現状分析を掲載しました。データ調査と図表作成では、事務局であり、広報グループの担当責任者である石井氏の協力をいただきました。良い特集記事となりました。心身多々感謝。

桜井 淳